



にじ

就任のご挨拶
統括調整監兼事務局長
吉村 修二 P2

就任のご挨拶 循環器病センター長(心得) 三宅 陽一郎 .. P3
わたし、がんばってます【新任医師紹介】 P4 ~ 5
僧帽弁閉鎖不全症に対するカテーテル治療
マイトラクリップ P6 ~ 7
高知医療センター イベント情報 P8

6

JUNE 2019 Vol.164



5月11日(土)、12日(日)、当院にてDMAT研修を開催しました

高知医療センターの理念 — 医療の主人公は患者さん —

就任の ご挨拶

統括調整監兼事務局長

吉村 修二

Syuji Yoshimura



平成31年4月1日付で統括調整監兼事務局長を拝命いたしました。
就任にあたりご挨拶申し上げます。

昨年度は、事務局の次長として総務系業務の取りまとめをしていましたが、この4月からは、統括調整監として、6局(医療局、看護局、薬剤局、医療技術局、栄養局、事務局)の調整役を担いながら、事務局長として職員の管理や業務委託等、円滑な病院運営を下支えする役割を担うことになりました。未経験の領域に直面することが多く、日々勉強することばかりです。

私は、昭和63年に高知市役所に採用され、行政の情報化推進関係の仕事に長く携わってきました。平成6年には、高知市立市民病院でオーダーリングシステムを導入する際に、業務改善班の班員として、行政現場と異なる病院現場での業務システム運用に3年ほど関わりました。病院で勤務するのは、今回で2度目となります。

今、机の上には、パソコンが2台(院内情報系、インターネット等事務系)配置されています。市役所に採

用された当時は、職場内にはパソコンは珍しく、各課に数台のパソコンがあり、それを職員で共用して使うという環境でした。現在、医療センターには、分っているだけで1600台近く設置されているそうです。大変な台数で管理が大変と思います。

また、採用された昭和63年度には、元号が「昭和」から「平成」へ変わる大イベントがありました。1月8日(日)、当時コボラーであった私は、朝から出勤して、業務用コンピュータのプログラム数十本を「平成」が取り扱えるように、夜中まで修正作業を行った記憶があります。

いま、元号は、「平成」から「令和」に変わりました。前回の元号改正とは、比べ物にならないほど、業務システムは拡大し、影響範囲は広がっています。注意深く、抜かりなく対応を進めてまいりました。

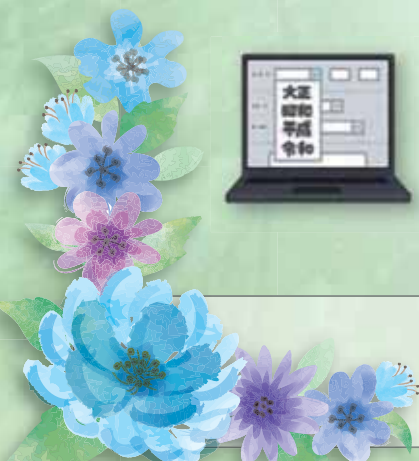


令和元年、開院15年目を向かえ、当院が県全体の中核病院としての役割を十分果たし併せて経営健全化を実現するよう、取り組んでまいります。

まだまだ未熟でございますが、どうぞよろしくお願い申し上げます。



医療技術局長には谷内 亮水が再任いたしました。
昨年度に引き続き、どうぞよろしくお願いいたします。



就任の ご挨拶

循環器病センター長（心得）

三宅 陽一郎

Yoichiro Miyake



平成31年4月1日より高知医療センター 循環器病センターのセンター長（心得）を拝命いたしました三宅 陽一郎です。就任にあたりご挨拶申し上げます。

高知医療センターの循環器病センターでは、循環器内科と循環器外科（当院では各々循環器内科と心臓血管外科と標榜しています）が相談・協力し、多くの治療選択肢の中から、各々の患者さんに**最適なオーダーメイド治療**を施すことを目標にしております。

治療において何が肝要か？

「いつ」「なにを」「どのように」治療するかにつきと考えるとします。当たり前と言えば当たり前ですが、時にこの当然のことが難しく、また、“こうすればいいとわかっていてもできない”ということも日常臨床診療上はよくあることです。

できない規定因子はいくつもありますが、病気が1つだけであれば、話は単純です。しかし、主病変1つだけで副病変はなし、というような患者さんは、現代医療においては、むしろあまり出くわさない、と言った方が妥当です。

「従前様々な合併症を持っている」ということが1つ、他方では「異なった複数の主病態の併存」ということもしばしばです。現代循環器領域治療においても治療の高齢化への適応は凄まじく、90歳台でも心臓手術が可能な時代ではありますが、高齢であることもやはり合併症に準じる問題かと思われれます。複数の病態の併存とは、“感染”と“心臓弁膜症”（感染性心内膜炎）や他病精査の過程で動脈瘤や虚血性心疾患や心臓弁膜症が発見されたような“循環器病以外”と“循環器病”の場合も、循環器病が複数存在するという場合もあるかと思われます。

このような状態においては、理想的な治療を断念して次善の策やその次の策をとらざるを得ない場合がしばしば発生します。

現代における高齢化社会においては治療の複雑性は日常茶飯事であり、むしろ理想的な治療を受けていただけるの方が少ないと言っても過言ではないかもしれないことは、みなさまもしばしば経験されることと存じます。

そのような時に重要なことは**治療の選択肢の充実性**です。

治療の選択肢が多ければ多いほどより良いものを選べるということは自明の理です。高知医療センター循環器病センターは非常にたくさんの治療手段を有し、循環器内科と循環器外科がカンファレンスなどの場においては元より、患者さんのベッドサイドにおいても、その知識と技術の総和により

患者さんの治療方針を相談して決定しております。このことを具体的に述べます。

大動脈弁疾患においてはTAVIと開胸手術という選択肢にとどまらず、TAVIにおいても2種類のdeviceの使い分けや、**valve in valve**（AVR後の方へのTAVI治療）という新たな選択肢があり、開心術における手術成績の非常に良好な実績（90歳代での手術経験や予定単弁手術での手術死亡なし）も加えられます。

僧帽弁疾患においては逆流症のほとんどに対して僧帽弁形成を施行しており、その良好な成績に加えて**Mitracclip**という僧帽弁に対する新たなカテーテル治療が5月または6月から始まることと決定しています。どうしても僧帽弁置換が必要な方においても弁・弁下組織温存術式により安全性と術後心機能の低下を極力抑える工夫をしています。

冠動脈においてはPCIとOPCABおよび両者のhybridという選択肢があり、OPCABにおいては両側内胸動脈使用を原則としており、低侵襲かつ長期間の永続性のある治療を目指して治療を行っております。

大動脈瘤では良好な開胸手術・開腹手術に加えて、ステントグラフト治療を行っておりますが、ステントグラフトにおいては私の出身校の先輩である最前線医師を招聘して、当院放射線科医とのチームで最先端の治療にあたっております。このため、広範囲大動脈や胸腹部大動脈瘤においても、開胸・開腹に加えてバイパスとステントグラフトのhybridであるdebranch TEVARおよびEVARにより選択肢も加わり、その治療手段は非常に多岐にわたります。

心筋炎・心筋症を始めとしたpump failure状態の治療においてもIABP・PCPSに加えて**IMPELLA**（循環補助用心内留置型ポンプカテーテル）を使用した治療も既に開始されております。

このように**良好で安定した手術成績と最先端のカテーテル治療**を多岐に渡り取り揃えて、ひとりひとりの患者さんに対して最も適切な治療を、複雑な病態に即した至適な治療を循環器内科医と循環器外科医が抽出して施行しております。

どのような患者さんでも最適な治療を施行していきますので、安心して高知医療センター循環器病センターに患者さんをお任せいただきたいと思います。

私の仕事はその治療および治療選択におけるmoderatorだと思っています。適切にmoderateし患者さんがお元気に当院を後にできるように精進してまいりたいと考えておりますので、どうかよろしく願いいたします。



わたしが



放射線療法科 おかむら あつし
岡村 淳

2019年4月より高知医療センター放射線療法科(がんセンター PET センター)で勤務しております。

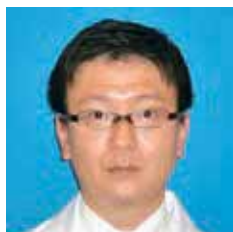
私の専門はPETを含めた画像診断です。画像診断は他の各診療科が患者さまに質の高い医療を行うためには不可欠であると思っております。最近の画像診断の進歩は知見・機種ともに目覚ましく、今後、医療における画像診断の役割はますます大きくなっていくと思います。一生懸命、仕事に励みたいと思っております。よろしくお願いいたします。



総合診療科 いしい たかゆき
石井 隆之

この度縁あって5年振りに高知医療センター総合診療科のスタッフとして仕事をさせていただくこととなりました。

この5年間は四万十町大正診療所所長として働いておりました。地域の診療所と大病院では医療従事者としての立ち位置も若干変わってくるのかもしれませんが、少しでも地域の方のお役に立てるよう尽力していきたいです。また、総合診療の質の更なる向上、若手医師の育成にも微力ながらお手伝いさせていただければと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。



脳神経外科 うえば ゆうすけ
上羽 佑亮

2019年4月より、高知医療センター脳神経外科に勤務となった上羽佑亮と申します。2010年～2012年にかけて当院での勤務経験があり、今回再び着任する機会を得ることができました。

懐かしい反面、医療の進歩の中で変化した部分もあり、1日でも早く慣れるべく奮闘しております。

当院は高知県における救急医療の要であり、県民の皆さまに少しでも良い医療を提供できるよう、微力ながら努めさせていただきます。よろしくお願いいたします。



消化器外科・一般外科 さとう たくじ
佐藤 琢爾

2019年4月から消化器外科・一般外科に赴任しました。卒後15年目になりますが、前任地がんセンター東病院では食道外科に所属し、食道癌切除術および周術期管理に特化した修練を積みさせていただきました。高知医療センターでも何か還元できるものがあればと思い、赴任させていただきました。

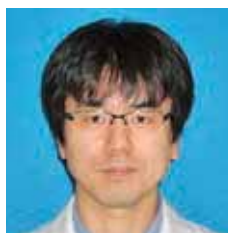
心機一転、最善の治療を患者さんに提供できるよう診療に取り組む所存です。ご迷惑を多々おかけすると思いますが、何とぞよろしくお願い申し上げます。



消化器外科・一般外科 むろかわ たかひろ
室川 剛廣

今年の4月から当センターで働かせていただいております。長野県生まれの千葉県育ちで、平成15年に東京慈恵会医科大学を卒業し、都内の病院で初期研修と一般外科の後期研修を終えた後

は、熊本大学病院、国立ソウル大学病院(韓国)、鹿児島大学大学院で肝臓移植外科(小児/成人)の臨床や臓器保存に関する橋渡し研究(大動物実験)と主に移植業界で研鑽を積んで参りました。微力ながら当センターに少しでも貢献できるよう日々努力していく所存です。皆さまどうぞよろしくお願いいたします。



整形外科 やまかわ やすあき
山川 泰明

2019年4月から赴任しました山川と言います。医師13年目で、岡山済生会病院、岡山大学病院に続いて3つ目の勤務地となります。

整形外科での赴任ですが、前任地では救急医として働いていたため、整形外科疾患を中心に診療しながら災害・ヘリなどにも携われたらと思っています。

高知は観光などで来たことはありますが、住むのは初めてで高知を満喫しようと思っています。よろしくお願いいたします。



呼吸器内科 うめした えみ
梅下 会美

高知大学卒業後、初期研修として地元の愛知県にある名古屋第二赤十字病院、名古屋市立大学病院で勤務、3年目からは高知大学第三内科に入局しました。

その後産休育休取得し4年間ほど外来手伝いなどの簡単な仕事を非常勤でしていました。今年8年目になりますが実務経験は初期研修合わせてほぼ3年ほどです。未熟な面が多々ありご迷惑をおかけすると思いますが頑張っていきたいと思います。よろしくお願いいたします。



放射線療法科 おおぎ けんた
仰木 健太

今年4月より高知医療センター放射線療法科で勤務しております。

仰木 健太と申します。

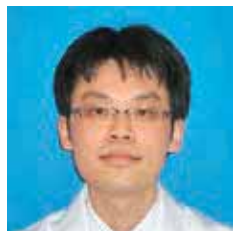
初期研修を当院で終えた後、8年ぶりに再度お世話になることになりました。

これまでは主に画像診断・読影に携わっていましたが、IVRについても研鑽したく、当院の豊富な症例を経験させていただいております。

至らぬ点もあるかと思いますが、一所懸命励んでいきますので、何とぞよろしくお願いいたします。

ばつてます

新任医師紹介



血液内科・輸血科 おかさとし 岡 聡司

本年4月より高知医療センター血液内科・輸血科に常勤医として勤務しております。

高知県いの町出身、自治医科大学卒業です。

医療センターは2年ぶりの復帰になりました。

この2年間は太月町国保大月病院にて総合内科を行っていました。地域での総合内科の経験を交え、幅広い視野で診療を行うことを心がけ、高知県の血液疾患の診療に貢献していきたい所存です。何とぞよろしくお願いいたします。



整形外科 かまつきゆうすけ 釜付 祐輔

2019年4月から整形外科で勤務しております。釜付 祐輔と申します。

岡山県倉敷市出身で、今年で医師10年目になります。

岡山大学卒業後は福山市民病院で初期研修を含めて4年間、岩国医療センターで1年間勤務し、岡山大学大学院に進み、外傷、膝関節外科、スポーツ整形外科の分野を中心に診療に携わって参りました。まだまだ未熟者ではありますが、少しでも皆さまのお力になれるよう精一杯頑張りますので、何とぞよろしくお願い申し上げます。



消化器外科・一般外科 きむらじろう 木村 次郎

2019年4月より高知医療センター消化器外科・一般外科に勤務しております。木村 次郎と申します。

消化器外科、特に肝胆脾外科を中心に日々診療させていただいております。

患者さんが笑顔になれることを願って日々精進し、その患者さんに最も適した治療を提供できるよう頑張りますのでどうぞよろしくお願い致します。



眼科 たかはしまさお 高橋 政雄

2019年4月より高知医療センター眼科に勤務しております高橋 政雄と申します。

これまでは高知大学医学部附属病院、県立あき総合病院で勤務しておりました。専門分野はまだなく、様々な症例の患者さまを診察させていただいています。

まだまだ慣れないことも多くご迷惑をおかけしておりますが、患者さまが少しでも満足できるような治療を提供できるよう精進して参りたいと思います。よろしくお願い申し上げます。



救命救急科 たけうちしんや 竹内 慎哉

2019年4月から救命救急科に赴任しております。

大学まで高知県で過ごし、その後県外で救急のトレーニングを行い、10年ぶりに高知に帰ってきました。

どんな症例でも「とりあえず診てから判断」と思っておりますので、気軽にご紹介いただければ幸いです。

高知県での医療は初めてですので、今後ともご指導のほどよろしくお願い致します。



脳神経外科 にしもしょうた 西本 祥大

脳神経外科の西本 祥大と申します。

卒後7年目で、初期研修の後は高知大学、幡多けんみん病院に2年間ずつ勤務し、今年度から医療センターへ異動となりました。

脳卒中診療、脳血管内治療を学んでいく所存です。

患者さまが少しでも良い状態で社会復帰できるような急性期医療を行い、高知の医療に貢献できればと思います。何とぞよろしくお願い致します。



循環器内科 もりあつし 森 淳史

2019年4月から高知医療センター循環器内科で勤務しております。生まれも育ちも三重県、大学は山口大学でした。初期研修から岡山の津山中央病院、その後山口の岩国医療センターで勤務し、このたびこちらに転勤となりました。いろいろな場所を点々としており、高知に来るのも初めてです。どこも同じような病院でしたが、環境やシステムが異なります。不安はありますが、少しでもみなさんの力になれるように頑張っていこうと思います。よろしくお願い致します。



僧帽弁閉鎖不全症に対するカテ

近年、高齢化に伴い、心不全の患者さんが急増しています。心不全とは、心臓が悪いために、息切れやむくみが起こり、だんだん悪くなり、生命を縮める病気です。心不全の罹患率は高齢になればなるほど高くなることが知られています。米国の研究によると、50歳代での慢性心不全の発症率は1%であるのに対し、80歳以上では、10%になることが報告されています。1980年以降、高齢化の一途をたどる我が国でも、近未来的に患者数の増加が続くと予想されており(図1)、こうした状況を、感染症患者の爆発的な広がりになぞらえて「心不全パンデミック」と呼ぶこともあります。



心不全の原因として、虚血性心疾患に加えて、心臓弁膜症による心不全が増加の一途をたどっております。これまでは弁膜症に対する治療は、外科手術しか方法はありませんでしたが、高齢者にとって外科手術は非常に負担になり、どうしても手術を受けることができない患者さんも存在しております。近年、大動脈弁狭窄症に対するカテーテル治療(経カテーテル的大動脈弁置換術:TAVI)が行われるようになり、外科手術困難、もしくは手術リスクの高い患者さんに対しても当院で施行させていただいております。一方で大動脈弁狭窄症と同様に心不全の原因となしやすい心臓弁膜症に「僧帽弁閉鎖不全症」があります。僧帽弁の閉まりが悪く、左心室から左心房に血液が逆流してしまうために起こるもので(図2)、逆流の程度が進むと肺うっ血、心不全などの症状が悪化します。僧帽弁閉鎖不全症の治療に関しても外科手術が有効でありましたが、手術リスクが高く、手術による治療を断念するケースも少なくありませんでした。そのような患者さんに対して低侵襲な僧帽弁閉鎖不全修復デバイスであるマイトラクリップ(MitraClip)(図3)が2018年4月から保険償還を認められ、日本での治療が可能となりました。この治療法は欧州では2008年、米国では2013年に承認を受け、これまでに50か国以上

図2

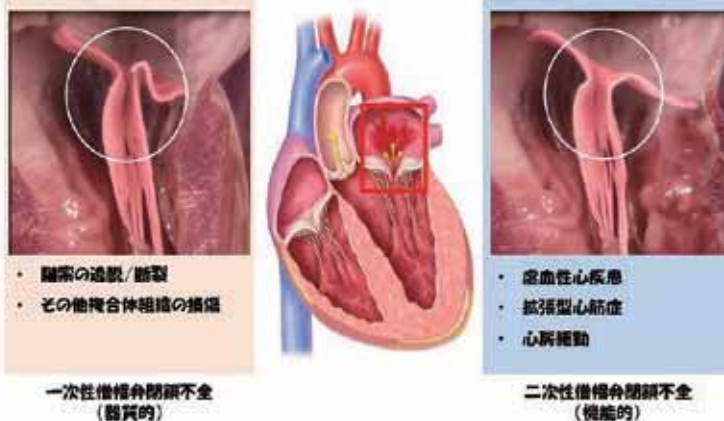


図3



一テル治療 **マイトラクリップ**

文責 循環器内科 尾原 義和

図 4



で6万人以上の患者さんが治療を受けておられます。2018年秋に米国で発表された研究では僧帽弁閉鎖不全症を有する心不全患者さんにおいて、至適薬物療法単独より、この**マイトラクリップ**を至適薬物療法に併せて施行した患者さんの方が有意に死亡率を低下させ、心不全による再入院を有意に抑制したとの報告がなされました。今後、ますますこの治療法が心不全で苦しむ患者さんの福音になると考えられます。

高知県は高齢化が進んでおり、65歳以上の人口比率が32.85%（全国平均 26.64% 平成27年国勢調査）と全国2位の高齢化県です。今後も心不全を発症する患者さんは増加することが予想されます。そのため、TAVIに加えて、僧帽弁閉鎖不全症に対する**マイトラクリップ**の導入は、高知県医療の「最後の砦」と位置付けられる当院の責務と考えられました。**マイトラクリップ**はその手術の特殊性から、非常に厳しい施設基準をクリアした施設でのみ施行が可能です。当院ではこの治療の導入のため、数年前から始動し、この度施設認定基準をクリアし、ついに高知県で初となる**マイトラクリップ**による治療が開始となります。

マイトラクリップは従来の外科手術と異なり、胸を大きく切開することなく、また心臓を止めずに治療が可能です（図4）。そのため、手術リスクの高い高齢者や併存症を有する患者さんも治療可能です。**マイトラクリップ**を含む心臓弁膜症に対する治療に関しては、循環器内科、心臓血管外科、麻酔科、看護師、臨床工学士、放射線技師、理学療法士等を含めた「**ハートチーム**」にて患者さんに最も適した治療法を検討させていただきます。

今後は当院においても積極的に本手術を取り入れ、**心臓弁膜症の治療の中核病院**として、外科手術はもちろんのこと、外科手術不能とされてきた心臓弁膜症の患者さんの治療に努力していく所存です。適応に悩まれる症例や内科的治療に難渋される症例がございましたら、いつでもご紹介ください。

月	日	曜	高知医療センター イベント情報					
6月	6	木	総合診療科セミナー(参加費無料・申込不要)					
			内 容	当直で困らない意識障害のみかた	場 所	高知医療センター 2階 やなせすぎ		
					時 間	18:00～19:30	対 象	医療関係者
			講 師	岡山大学大学院 医歯薬学総合研究科 脳神経内科学 講師 山下 徹 先生				
			お問合せ: 高知医療センター 総合診療科 澤田 TEL:088(837)3000(代)					
	6	木	高知医療センター新人看護師研修 他施設公開研修(参加費無料・申込要)					
			内 容	与薬技術3	場 所	高知医療センター 1階 研修室2・3		
					時 間	14:30～17:00	対 象	新人看護師(10名)
	講 師		高知医療センター 臨床検査技師／教育担当者					
	12	水	高知医療センター看護局集合研修 他施設公開研修(参加費無料・申込要)※申込期限:6月7日(金)					
			内 容	心のケア1	場 所	高知医療センター 1階 研修室2・3		
					時 間	17:30～19:00	対 象	看護師(20名)
講 師		高知医療センター 精神科認定看護師 岡村 邦弘						
27	木	高知医療センター新人看護師研修 他施設公開研修(参加費無料・申込要)						
		内 容	高齢者ケア1	場 所	高知医療センター 1階 研修室2・3			
				時 間	9:00～10:30	対 象	新人看護師(15名)	
講 師		高知県立大学 教員						
27	木	高知医療センター新人看護師研修 他施設公開研修(参加費無料・申込要)						
		内 容	医療安全2	場 所	高知医療センター 1階 研修室2・3			
				時 間	13:00～16:00	対 象	新人看護師(10名)	
講 師		高知医療センター 医療安全管理者／教育担当者						
27	木	第42回 こうち東部循環器アライアンス(参加費無料・申込不要)						
		内 容	冠動脈疾患における抗血小板療法	場 所	田野町ふれあいセンター(安芸郡田野町1456-42)			
				時 間	19:00～20:30	対 象	医療関係者	
		講 師		高知医療センター 循環器内科 科長 宮地 剛				
お問合せ: 高知医療センター 事務局 経営企画課 井上 TEL:088(837)3000(代)								
7月	18	木	高知医療センター看護局集合研修 他施設公開研修(参加費無料・申込要)※申込期限:7月8日(月)					
			内 容	成人BLS／AED研修	場 所	高知医療センター 2階 スキルズラボ室		
					時 間	9:00～12:00	対 象	看護師(3名)
	講 師		高知医療センター BLSインストラクター					
	24	水	高知医療センター看護局集合研修 他施設公開研修(参加費無料・申込要)※申込期限:7月19日(金)					
内 容			心のケア2 ①せん妄状態の患者の看護	場 所	高知医療センター 1階 研修室1・2			
				時 間	17:30～19:00	対 象	看護師(20名)	
講 師		高知医療センター 精神科認定看護師 岡村 邦弘						
			【高知医療センター 看護局集合研修・新人看護師研修 他施設公開研修お申込み】 申込用紙は当院ホームページ 看護師他施設公開研修よりダウンロードできます。必要事項をご記入の上 FAXにてお申し込みください。申込代表者は看護部門の担当者様でお願いいたします FAX:088(837)6766 お問合せ: 高知医療センター 看護局 教育担当(有澤・佐野・川田) TEL:088(837)3000(代)					

※時間等、変更になる場合もございますのでご了承ください。みなさまのご参加を心よりお待ちしております。

編集後記

皆さん、大型連休はいかがお過ごしでしたか？

今年度、当院は昨年度よりも多くの初期臨床研修医を迎えました。研修2年目となり後輩もできた私は、1年目以上に気を引き締めて日々の研修を送っております。残る研修期間も、高知県の医療に貢献できるように頑張りたいと思います。

今月号のにじは、就任、新任の挨拶をはじめ、今年度から始まった高知県では初となる、マイトラクリップによる治療を掲載しています。皆さん是非ご一読ください。

(広報委員 藤田)



令和元年6月1日発行
にじ6月号(第164号)
毎月発行
編集者: 広報委員会
発行者: 島田 安博
印刷: 株式会社 高陽堂印刷

発行元:
高知県・高知市病院企業団立
高知医療センター
〒781-8555 高知県高知市池2125-1
TEL:088(837)3000(代)

広報誌「にじ」に関するご要望・ご意見をお寄せください。renkei@khsc.or.jp